

# 魔法のプロジェクト 活動報告書

報告者氏名:佐藤 知代子 所属:南あわじ市立市小学校 記録日:2023年 月 日

キーワード: 体験活動 アプリの活用

## 【対象児の情報】

- ・学年 4年
- ・障害名 知的障がい
- ・障害と困難の内容
  - 集中力が続かず、作業中に自分の話したい事があるとおしゃべりが始まってしまう。
  - 耳からの情報を一度に処理できず、分からなくなると不機嫌になることがある。
  - 集団での活動に苦手意識があり、輪に入れないことがある。
  - 幼さがあり、自分勝手な行動に出してしまう。

## 【活動目的】

- ・当初のねらい  
「できた！わかった！がんばった！」がいっぱいになるように
- ・実施期間 令和3年4月～令和5年3月
- ・実施者 佐藤 知代子
- ・実施者と対象児の関係 知的支援学級児童と担任(3年目)

## 【活動内容と対象児の変化】

- ・対象児の事前の状況

### 【学習面】

- 気分にムラが大きく、できる日とできない日の差が激しい。
- 昨年一年の実践を通し、書くことがスムーズにできるようになったが、全てひらがな表記であり、拗音・促音は上手く使えない。作文をするには至っていない。
- 基本的な四則計算ができるようになった。あまりの割り算や割る数が2桁になる割り算はできない。
- 数の概念が不十分である。3桁までは何とか読めるようになってきている。
- 今年度初めてWISCが受けられるようになった。全検査60で、それまでADHDや自閉スペクトラム症など毎年のように診断名が変わっていたが、全ての行動特性も軽度知的障がいから来る幼さであり、発達障害によるものではないと診断された。

### 【生活面】

- おしゃべりが好きだが、会話が一方的になってしまうことが多い。
- 優しく、相手の様子をうかがったり気持ちを察してあげたりすることができる。困っている人には助けてあげることもできる。
- 初めての事には苦手意識が高く、参加を拒む。
- 異学年交流や大人数の中には入りたがらないことが多い。時に固まってしまうこともある。
- 時間の感覚が乏しく、急いだり先読みしたりすることが難しい。注意をされると余計に動けなくなることもある。
- 勝負事へのこだわりが強く、負けそうになると止めてしまう。ひどいときにはその場から逃げ出してしまうこともある。

## ・活動の具体的内容

### 困ったときにはタブレットを使おう

#### 書くことでの取組

##### ○分からない漢字は調べよう

###### 「Vosual」

漢字は、1年生程度しか書くことができない。そのため本アプリを使い、漢字を調べ書くようにした。発音が不明瞭でうまく聞き取ってもらえなかったり、音訓の変換が上手くいかなかったりするため、引き続き練習が必要であるが、少しずつ操作がスムーズになってきている。



###### 「漢字読み方辞典」

読み方が分からない文字が出てきたときに活用する。少しフォントの違いで同じ文字であると認識できないこともあるが、大変スムーズに活用できている。



###### 「漢字筆順辞典」

昨年から引き続き、難しい漢字や筆順が多い物は、一度調べ、書き方を見てから書くようにしている。実際の筆順で動くので、文字のイメージがしやすい。



##### ○楽しくひらがなをおぼえよう

###### 「ひらがなめっちゃわかるもん」

楽しくひらがな・カタカナ表記の練習ができる。



デッキには大好きな恐竜を入れ、意欲を持って取り組めるようにしている。

また、デッキ2には先生の顔写真を入れ、なかなか覚えられない先生方の名前チェックに使った。

##### ○写真を撮って板書をしよう

###### 「カメラ」



これまでは、支援者が同じノートに書いたお手本を見てその通りに写していた。しかし、今年度からは、カメラで黒板を写し、それをノートに書き写せるように練習をした。

#### 計算での取組

##### ○割り算がでてきたら、計算機を使おう

###### 「あまり計算機」

あまりのない割り算ならできるが、割る数が2桁になったりあまりが出たりする問題はできないので、計算機を使って計算した。

##### ○九九が出てこないときには九九表を使おう

アプリをタブレットのデスクトップに保存しておき、九九がぱっと出てこない時には調べるようにする。今年度はかなり九九が定着したので、九九表を使う事がなくなった。

### 活動における取組

##### ○ドロップニュースでスピーチをしよう

週2回支援学級児童3クラス6人が集まって朝の会をしている。その中で2学期より「ニュース係」として、ドロ

ップニュースを読み、今日のニュースを伝えた。朝、教師のスマホに届くドロップニュースを Air drop で本児のタブレットに送り、本児のタブレットは読み上げ用、教師のタブレットはみんなに見せる用として活用した。



○行事や苦手な物は、手順書を使って確認しよう

「Metamoji classroom」

昨年度より、行事やルールの複雑な活動については、手順書を作って保存した。

1年越しの活動であっても、昨年度のデータを読み返し、確認ができるので落ち着いて取り組めた。

メタモジは普段の授業の教材作りや連絡など様々な活用ができ、よく利用した。



○お買い物チャレンジをしよう

お金の感覚が身についておらず、平気で「チョコレートが 30 万円」などと言う本児であった。昨年はタブレットやお金の教具を使い、買い物学習を続けてきたが、十分な効果が得られなかった。今年度は、校区内にあるセブンイレブンへ実際買い物に出かけることを月 1 回行い、実際の買い物を通じて物とお金の価値が身につくよう取組を行った。(以下、セブンイレブンミッション)

・対象児の事後の変化

書く事への取組より

・昨年度の取組により書く事の抵抗感が大幅に減り、ひらがなが正しく書けるようになってきている。想起して書けるようになってきたので、メモを取ったり短い手紙を書いたりできるようになった。

・板書を写す活動のイメージが付いてきたので、お手本を書かなくてもカメラを活用し板書ができるようになってきた。どうやって書けばよいか分からない時には友だちのノートを写真に撮らせてもらい写すことができるようになった。

・漢字プリントを見るとアプリを起動しようとするが、早口になったり不明瞭な発音になったりするためうまくいかずイライラしてしまうことがある。少しずつ練習を重ね、言い方を変えたり、ゆっくり伝えたりすることができるようになった。

・基本的に漢字の読みは得意なので、4年生のものでも7~8割は自力で読むことができる。しかし、訓読みや難しい熟語が出てきたときにはアプリを使い調べる事ができるようになった。スムーズに使い方を理解することができ、上手く活用できているが、フォントの違いから同じ文字ではないと思ってしまう事もしばしばあった。

計算での取組より

・漢字同様、問題を見て自分でアプリを起動させることができるようになった。与えられた問題を集中してできるようになった。入力がスムーズになり、速く打てるようになってきた。

・割り算に対する苦手意識も減り、割りきれぬ数だけでないということも理解でき、2桁÷1桁(あまりなし)の筆算までできるようになってきた。

活動による取組より

・ニュース発表は現在一番効果が現われている。それまで、支援の朝の会への参加を少し拒んでおり、なかなかうまく参加ができていなかったが、ニュース係を機に前向きに朝の会への参加ができるようになった。元々ニュースが好きなので自分でそこに少しエピソードを足して発表することもできるようになった。

・セブンイレブンミッションは、楽しんで毎月取り組めた。毎月買い物に行った後「反省会」を行い、今回の活動を振り返っている。その事をメタモジ上に残しておき、翌月の買い物前に再度確認し、作戦を立ててから行けるようになった。お店でも、「これがいいけど、足りないな」など予算を意識することができるようになってきた。始めは、行き帰りだけで40分以上かかっていたが、今では体力もついてきたこともあり移動にかかる時間が早くなり、お店でゆっくと品定めができるようになった。

### 【報告者の気づきとエビデンス】

#### ・主観的気づき

これまで一人学級であったこともあり、困ったときには教師がすぐに手を助けてしまいがちであった。しかし、今年度の取り組みを通して、「自分で調べてみよう」「困ったらアプリを活用しよう」という意識が少しずつ身についてきた。それに伴い一人学びができるようになってきた。また、学習に対して前向きになり45分の中でできることも増えたことにより、基礎学力も身につけてきている。算数科では四則計算がしっかりできたことにより、新たなチャレンジをすることができるようになった。また、ニュース係やセブンイレブンミッションなど、人とのコミュニケーションを図る活動を通して集団や面識のない人への苦手意識も減ってきている。

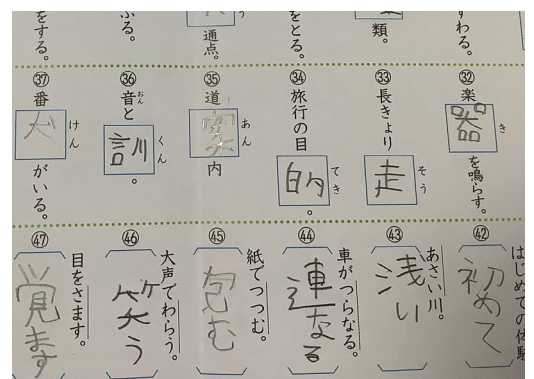
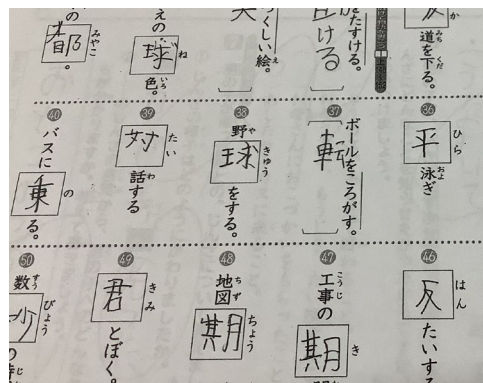
#### ・エビデンス(具体的数値など)

##### 〈算数領域〉

あまり計算機を活用し、あまりのある割り算に慣れたことで、割り算にあまりが出るということが理解できた。そのことにより、2桁÷1桁の割り算の筆算ができるようになったり仮分数を帯分数に直したりすることができるようになった。

##### 〈国語領域〉

昨年度の取り組みから、学習の中で書く活動を多く取り入れ、文字に対する苦手意識が減り、字形も整ってきた。誤字も少なくなり、送り仮名も正しく付けられるようになり、アプリで漢字を調べたものをプリントやノートに書き写すということができるようになった。



#### 【2年時】

間違いが多く見られる。

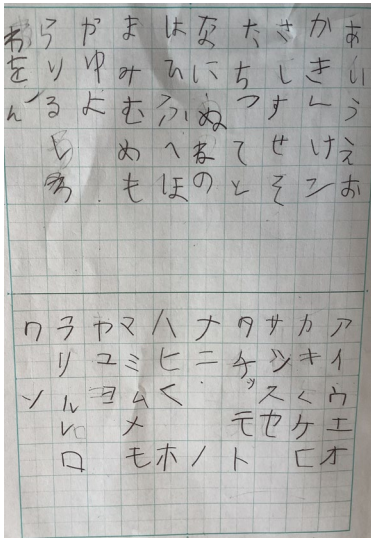
#### 【3年時】

字形は整ってきたが誤字が多い。  
送り仮名が抜けることが多い。

#### 【4年時】

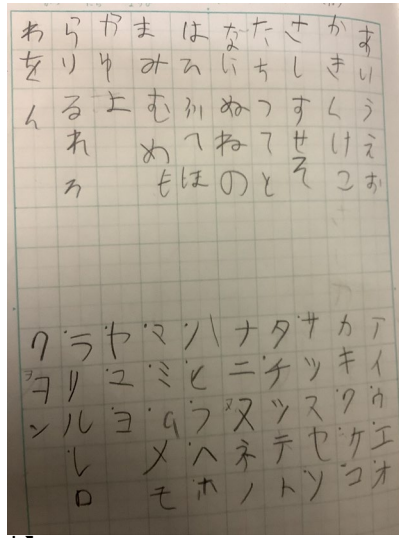
字形も整い、送り仮名をきちんと  
書く事ができるようになった。

書き写すのにかかる時間も短くなった。3年時、50問テストを答えを見て書き写すのに、40分かかっていたが4年時では、15分程度で完成することができた。



【3年時】

ひらがなも悩みながら書く様子が見られた。一部カタカナになっ



【4年時】

ひらがなはスムーズに書く事ができるようになった。カタカナは少し悩み「ライオンのラ」のように単語とセットにすると書く事ができた。(・がついているもの)

・その他エピソード(画像などを含めて)

○体験における成功体験と活動への意欲付け

【エピソード①:セブンイレブンミッション】

昨年度より、お金の計算について学習をすすめている。昨年度はアプリを使ったりお買い物ごっこをしたりする中で、お金の違いや数え方について学んできた。しかし、なかなか定着は難しく金銭感覚を養うに至らなかった。また、お金そのものにあまり興味も無いように感じた。そこで、今年度は、「セブンイレブンミッション」と題し、校区内にあるセブンイレブンに買い物へ出かける活動を取り入れた。

実施方法は以下の通りである。

(日時)6月以降の毎月7日か11日

(場所)セブンイレブン

(ルール)予算500円を使い、先生方(28人)へ何かお土産を購入して帰る。

戻った後には「反省会」を行いメタモジに気づいたことや感想を入力しておく。その情報を基に翌月の活動へつなげる。

《活動結果》

6月

先生方の人数も確認せず目に入ったカントリーマアムを一袋購入した。学校へ戻り、職員室で配ろうとしたときに、全然足りないことがわかり、次回から個数を気にしなければならないと気づいた。メタモジに反省会の記録を残し、前月に何で失敗したのかがわかるようにしておいた。

7月

出発前に振り返りを確認し、作戦を立てて望んだ。500円で28人分のもを購入するので一人20円のものを探



そうという作戦で行った。一本9円のうまい棒を見つけ、無事購入成功。1本多く買え、母へのお土産にすることもできた。しかし、「疲れた先生に甘い物を」という当初の予定が果たせなかったため、次回は甘い物にチャレンジする。と決めた。

とても暑い日であったが、最後まで歩いて学校まで帰ってくる事ができた。

9月

一個10円の飴を発見。9月から先生が増えたので、母へのお土産は確保できなかった。ちょうど28個あったので、飴を買い占めてしまったことで、次のお客さんに申し訳ないという反省だった。



10月

小袋になっていない「チョコシュー」を発見。甘い物だし、数も足りて満足。しかし、手袋を付けて、紙を敷いてから配らなければならなかったこと、また、母へのお土産が手に入らなかったため、大成功には至らなかった。この頃から移動時間がぐんと減り、ゆっくりと反省会をする時間も取れるようになった。また、お買い物に行く前に自分から進んでタブレットを確認することもできるようになった。

11月

日があわず実施できなかった

12月

一つずつ個包装された「アルファベットチョコ」を発見。数も足りて母へのお土産もできたので、大成功。ただし、別のお遣いとして行ったお店での購入のため次回はセブンイレブンで見つけたいという感想。おつりのお金がスムーズに読めるようになってきた。

1月

作戦がかなり具体的になってきた。個包装の物であれば、個数を気にしなければならないので、15個入りなら2袋(250円まで)、10個入りなら3袋(166円まで)という計算をしてメモを持って臨んだ。袋の個数と値段を意識しながら買い物をすることができ、10本入りの「チョコ棒」を発見し見事大成功。

《まとめ》

はじめは、自分の欲しいものだけを買おうとしたり、他の商品に目がいてしまったりしていたが、1回目のあと先生方に「ありがとう」と言われたことが大変嬉しかったようで、意欲的に取り組むことができた。少しずつ成功に近づき、自分から「早くふりかえりしよう」と言うこともあった。昨年度なかなか読めなかったお金も、実物に触れることで少しずつ読み方も分かるようになってきた。

【エピソード②:朝の会でのドロップニュースの活用】

今年度から支援学級3クラス(6名)での朝の会を週2回実施している。対象児は、集団が苦手なため、はじめは6人の集団でもなかなか参加しづらいことがあった。1学期で少しずつ関係を作り、安心した空間ができはじめてきたので、2学期は児童主体の朝の会にレベルアップをした。司会も高学年児童が順番に回し、それぞれができる仕事を

「係」として行う事にした。対象児は、「ニュース係」として、ドロップニュースを読み上げるようにした。本来ニュースに興味があり、読むことが得意なので初めて見るニュースでも上手にすらすらと読むことができた。いつの頃からか、他の児童から「早くニュース聞きたい」「今日のニュースは何かな」という声上がるようになり、自信をもってニュースをお届けできるようになった。



少人数ではあるが、人前で話す事が増え、自信もついた。それまで恥ずかしく声が小さくなりがちだった交流学級でのスピーチや日直の司会も大きな声ではっきりと言えるようになった。また、話合い活動にも積極的に参加ができるようになった。児童集会などの全校集会にもきちんと4年生の列に入り参加することができるようになった。